

『しんぶん赤旗』の題字はいつからですか?という質問をよく受けます。

「赤旗」は1928年2月1日創刊ですが当初は「せつき」とよび、戦後は再刊10号から「アカハタ」AKAHATA」に、47年に「アカハタ」、66年に「赤旗」と改題、「しんぶん赤旗」の題字は、97年4月1日付からです。(日曜版は同年4月6日号から)

題字にこめられた思い

日刊紙と同じブランケット判だった日曜版をタブロイド化するという大刷新に合わせて、題字を変更したので。なぜ「しんぶん赤旗」なのか。同年3月27日付の社告はこう書いています。

「題字の変更は、…『赤旗』が新聞だと一目でわかっていただけのようにしたものです。『赤旗』

は日本共産党の中央機関紙であるとともに『真実をもとめる国民の共同の新聞』です。このことを題字の面でもすっきりわかるようにします」

日本共産党は前年96年10月、小選挙区制導入下の初の総選挙で、比例で726万票を獲得、小選挙区の2議席を合わせ26議席を獲得する歴史的躍



「しんぶん赤旗」に改題した日曜版1997年4月6日号

進をかちとりました。党と国民との関係が新しい質的段階に入りつつあるなかで、「赤旗」もそれにふさわしい発展が求められている—「しんぶん赤旗」の題字に込められた思いです。

それから18年、日本共産党が「戦争法廃止の国民連合政府」を提案、それが大反響を呼び、政治の焦点になるという情勢の劇的展開—「真実をもとめる国民の共同の新聞」が、いよいよ出番の情勢を迎えています。

(つづく)

◇ 「しんぶん赤旗」にまつわる、こんな話、あんな話をシリーズで紹介いたします。